



UNITE FOR GOOD

クラブ週報

五城目ロータリークラブ

○ クラブ広報委員会

(本年度第 10 回例会)

◎ 四つのテスト

第 2808 回例会
令和 7年 10月 9日(木)
午前 12:30~



☆ 点鐘

◎ 君が代斉唱

◎ ロータリーソング : 奉仕の理想

☆ 会員の誕生祝 : 荒川正己会員(10/26) ☆会員の結婚祝 : 川村公一会員(10/28)

◎ 会長の時間 : (畑澤会長)

・・この間(9/26)八木下さんのお寺で、「明治19年疫病災禍140回忌追悼式典」、そして午後からは「秋の交通安全運動」と参加して頂きまして本当にありがとうございました。両方とも天気にも恵まれて大変良かったと思っております。交通安全運動の方には、五城目高校のインターアクトクラブの5名の生徒と一緒に参加して頂いて、大変良かったと思っております。この後また行事がありましたら、ご協力の方よろしくお願ひしたいと思っております。

先ほど話題になっておりましたが、今盛んにテレビ、新聞などでは、熊の出没と、それから自民党の政治の権力争いとか、あとは「ノーベル賞」に2人(日本人)出たということで、賑やかな状況になっているところでもあります。特に熊については、人身被害も出ている事で、この間、テレビでも全国放送があったりもしております。昔は我々小さい頃など、熊の話が出る事も無かったですが、最近はどうも野生動物が盛んに増えている状況で、熊もそうですが、いたる所で、イノシシの被害も結構あるという話も聞きますので、いろんな動物と我々がどういう風にして共存していくかというのが、これから大事な事と思っております。

先日(10/7)の「五城目町町制施行70周年記念式典」の時に、記念講演で湖東厚生病院の漆畑先生が話していましたが、熊の解体の時に立ち会った話もしておりました。熊が出るという事は、食べ物に豊富だということで、自然が豊かな証拠だと話しておりましたが、我々にとっては非常に迷惑な話です。また、いろんな地域に行くと、空家がったり、荒れ地になっている所も沢山あり、草がぼうぼうの所も目に付きます。地域の人達も草刈をして(熊の)緩衝地帯を作っているようですが、昔は冬になれば、熊が出ない(冬眠)状況でしたが、去年の状況を見ると、冬に雪が降っても、こういう状況になっていて、皆さんも出歩く時に気を付けてもらいたいと思っております。今月もよろしくお願いします。以上です。

☆ 幹事報告(八木下幹事) 来信報告があります。

*財団室ニュース・10月号。*台北国際大会の案内。*第47回バギオ訪問交流大会の旅の案内。*地区大会・決議事項の報告。*次週は夕食例会です。午後6時より、会費3000円。

☆ ニコニコ(自己申告)

*八木下会員 : ①9月26日のコレラで亡くなった方々の 疫病災禍140回忌追悼法要を午前10時からやらせて頂きました。町長初め、警察署長さんにお出で頂きまして、また議会の方も数名、近くのお寺さんも案内をだして、駆けつけて頂きまして、無事法要をして頂きました。ロータリーの皆さんにも出席頂きまして、本当にありがとうございました。140回の節目でございますので、皆さんにも、こういう出来事があったということが少しでも伝わって良かったと思います。ありがとうございました。②その次の日ですが、私の弟が、青森の青龍寺というお寺に居ますが、去年住職が亡くなりまして、今回「晋山式」ということ

で私が行って来ました。これで「第四世の住職」になります。高野山の真言宗のお寺で、青森別院の住職と初代が自分で建てた青龍寺と両方の住職をやっている形になっております。いろいろ見どころのある地域ですので、行く機会がありましたら、お寺に寄って頂ければ、五城目町から来たと言ってもらえば、大歓迎してくれると思いますので、よろしくお願いしたいと思います。以上 ニコニコします。

☆ 出席率報告

〔出席報告〕 12名中 6名出席 50 %
事前メール0名、申告欠席 6名、病欠欠席 0名

【例会場】  グリーンロイヤル丸富
〒018-1706 五城目町字下タ町 248
Tel018-852-2140 Fax018-852-4049

☆ 点鐘 (午後 1:30)

ロータリー情報



ロータリーの友 (10月号) より
掲載しました。

8月1日、大阪・関西万博「平和と人権」ウィークで、第2660地区主催プログラム「青少年の提言『平和構築と人権擁護』」が開催されました。地区内インターアクトクラブに所属する高校生約70人が集まり、平和と人権について学ぶ貴重な機会となりました。

開会に当たり、フランチェスコ・アレツツォ国際ロータリー(RI)会長がオンラインであいさつし、ロータリーの平和構築活動や国連との協力、ポリオ根絶・教育・健康支援などを紹介。若い世代が行動し、学び、解決策を考えることの重要性を訴えました。

続いて、法学者で元国際連合人権理事会諮問委員会委員である、甲南大学の中井伊都子学長が登壇し、「人権は人間の尊厳に根差すものであり、平和なくして守ることはできません」と述べました。命の奇跡的な連続を通じて人権の価値が成り立つことを説明し、「平和と人権の関わりを改めて考えることには大きな意味があります」と強調。さらに世界人権宣言や国際人権条約、日本国憲法に触れ、人権の普遍性や個人を尊重することへの重要性を説くと、インターアクターたちは真剣なまなざしで耳を傾けていました。

午後には、平和構築と人権擁護の最前線で活躍するロータリー学友による活動報告が行われ、続いてイン

ターアクターたちが「平和提言」を発表。ジェンダー、教育、人権尊重など、身近な課題を取り上げ、平和をどう守り育てるかを訴えました。その後、学友からの質問に答える質疑応答が行われ、世代を超えた対話が実現。会場では休憩時間を使ってインターアクターが学友に積極的に声をかける姿が見られ、交流の輪が広がっていました。

今回のプログラムは、第2660地区が約1年半かけて準備を進め、若手ロータリアンやローターアクターが中心となって形にしました。大阪・関西万博関連事業実行委員会委員長の宮里唯子氏は「若い世代が自分たちの事業として主体的に取り組んでくれたことが何よりの成果でした」と述べました。

当日は「高校生の発表を直接見届けたい」と会場に駆け付けたロータリアンもいましたが、運営上、入場に厳しい制約があり、入場できなかった人も。それでも会場外で配信を視聴する姿が見られ、熱意を持って若者の声に耳を傾ける様子が印象的でした。

万博という世界に開かれた舞台上、ロータリーが青少年と共に「平和」への思いを発信した今回の取り組みは、きっと未来につながる一歩となることでしょう。

(取材:友編集部 飯田亜由香)